使用上の注意（必ずお守りください）

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。	お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

⚠警告……この表示は「人が死亡または重傷※1を負う可能性が想定される内容」を示しています。

⚠注意……この表示は「人が傷害※2を負う可能性が想定される内容や物的損害※3の発生が想定される内容」を示しています。

……必ず守る内容です。

※1「重傷」とは、失明・けが・やけど（高温・低温）・感電・骨折・中毒などで後遺症が残るもの、または治療に入院や長期の通院を要するものを指します。
※2「傷害」とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど（高温・低温）・感電などを指します。
※3「物的損害」とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を指します。

※お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠警告

必ず守る

- ●本来の目的以外では使用しないでください。用途以外で使用になられた場合、転倒やケガをするおそれがあります。
- ●下記に該当する方は、必ず専門医・理学療法士と相談のうえ使用してください。
  （病中・病後間もない方、妊娠中の方、発育途中の方、骨粗しょう症の方、ヘルニア等骨格に障害を持たれている方、体が不自由な方）
- ●本商品を使用して、少しでも身体に異常を感じた場合は、直ちに使用を止めてください。使用を中止しても症状が改善しない場合は医師にご相談ください。
- ●高齢者の方は体力の低下が考えられるため、健康であっても専門医と相談のうえ使用してください。
- ●小さいお子様に使用させたり、本商品の上やまわりで遊ばせないでください。使用される場合は、必ず保護者の方が付き添ってください。
- ●高齢の方が、ストレッチをする場合は、必ず付き添いの方とともに使用してください。
- ●平らで安定した滑りにくい場所で使用してください。滑りやすい場所では使用しないでください。
- ●椅子やソファーの上では使用しないでください。転倒の恐れがあります。
- ●少しでも飲酒している場合は、本商品を使用してストレッチをしないでください。
- ●勢いよく背もたれにもたれ掛かると、右図の様に頭部を床等に打ち付ける危険性がありますので注意してください。
- ●ストレッチをする場合は、周囲を確認して、安全な場所で使用してください。

⚠注意

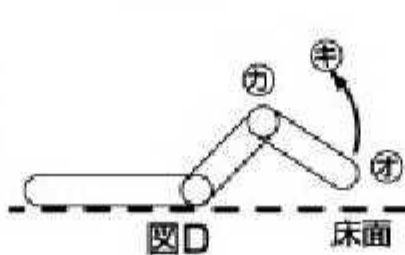
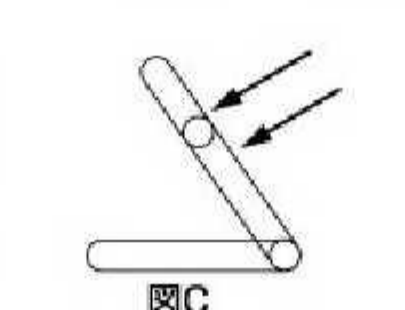
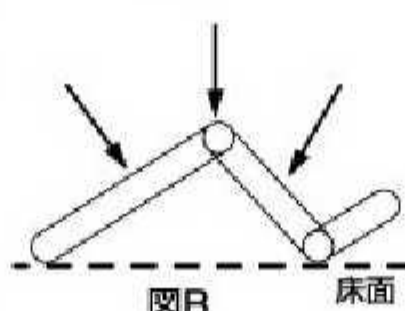
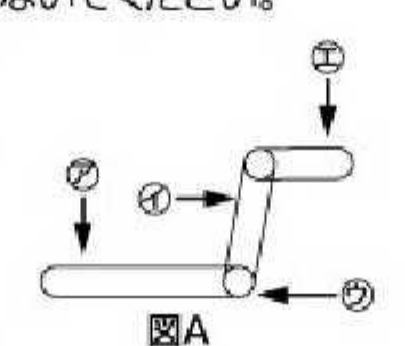
必ず守る

- ●ストレッチでの使い始めは、数分から使用していただき、身体の様子を確認しながら徐々に時間を延ばしてください。
- ●長時間のストレッチや同じ姿勢は体に負担をかけ過ぎるおそれがあります。
- ●座面の上に立たないでください。
- ●座面以外の所には座らないでください。
- ●リクライニングの可動部分で手を挟まないようお気をつけください。
- ●暖房器具（こたつ、ヒーター等）の近くに放置しないでください。本商品の表面が過度に加熱されますと、火災や火傷の原因になるおそれがあります。
- ●本商品を分解や改造したりしないでください。
- ●座ったままの状態でリクライニング操作や移動したりしないでください。
- ●図Aの㋐（座部）㋑（背部）を使って　シーソー遊び等をしないでください。
- ●図Aにおいて㋑の方向に約60kg以上の荷重を掛けないでください。背が曲がり、破損の危険があります。
- ●危険ですので図Aの㋒部に手足を入れないでください。
- ●座る用途以外には使用しないでください。また、図Aの㋓に座らないでください。
- ●図Bのように本商品をひっくり返した状態で矢印の方向には絶対に力を加えないでください。
- ●リクライニングの外側から力を加えないでください。
- ●図Cの状態で後ろから力を加えないでください。
- ●背もたれ部に過度の力を加えると転倒する恐れがあります。
- ●畳やフローリングの部屋でご使用の場合はカーペット等を敷いてご使用ください。畳やフローリングを傷つける場合があります。
- ●本商品のカバーは構造上洗うことが出来ません。ファスナーを開けないでください。
- ●図Dの様に㋔を浮かせた状態でご使用ください。㋔が床に付いた状態でご使用になりますと、㋕のギアが入り㋖の方向へ頭部が動き転倒の恐れがあります。

図A

図B

図C

図D

保管方法

- ●直射日光や雨の当たらない場所で保管してください。
- ●屋外や高温（40℃以上）になるおそれのある場所で使用したり、保管しないでください。
- ●浴室付近など湿気の多い場所や水滴がかかる場所で使用したり、保管しないでください。

お手入れ方法

- ●洗濯は出来ませんので、ファスナーを開けないでください。
- ●シミや汚れなどは、柔らかい布またはスポンジを水で湿らせ、固く絞ってから拭いてください。

※シンナー、ベンジン、ガソリンなどの溶剤や化学雑巾は使用しないでください。また、強く拭きすぎますと、ホツレや色落ちの原因となりますのでお気を付けください。

- ●本商品開封時に、臭いが気になる場合があります。その際は、1日風通しの良いところで陰干ししてください。

※開封時の臭いは、健康上に問題は御座いません。

【製品サイズ】
幅490mm×奥行600mm（600～970mm）
×高さ180mm（180～560mm）
座面の高さ130mm

【素　　材】
構 造 部 材：金属（鋼）
張　り　材：表地／ポリエステル、裏地／ポリエステル
クッション材：ウレタンフォーム、ポリエチレン

【耐荷重：100kg】

0070-2058
H1221-2
中国製

お客様相談室
0120-559-553

外箱

内袋

背筋がGUUUN美姿勢座椅子【家庭用】

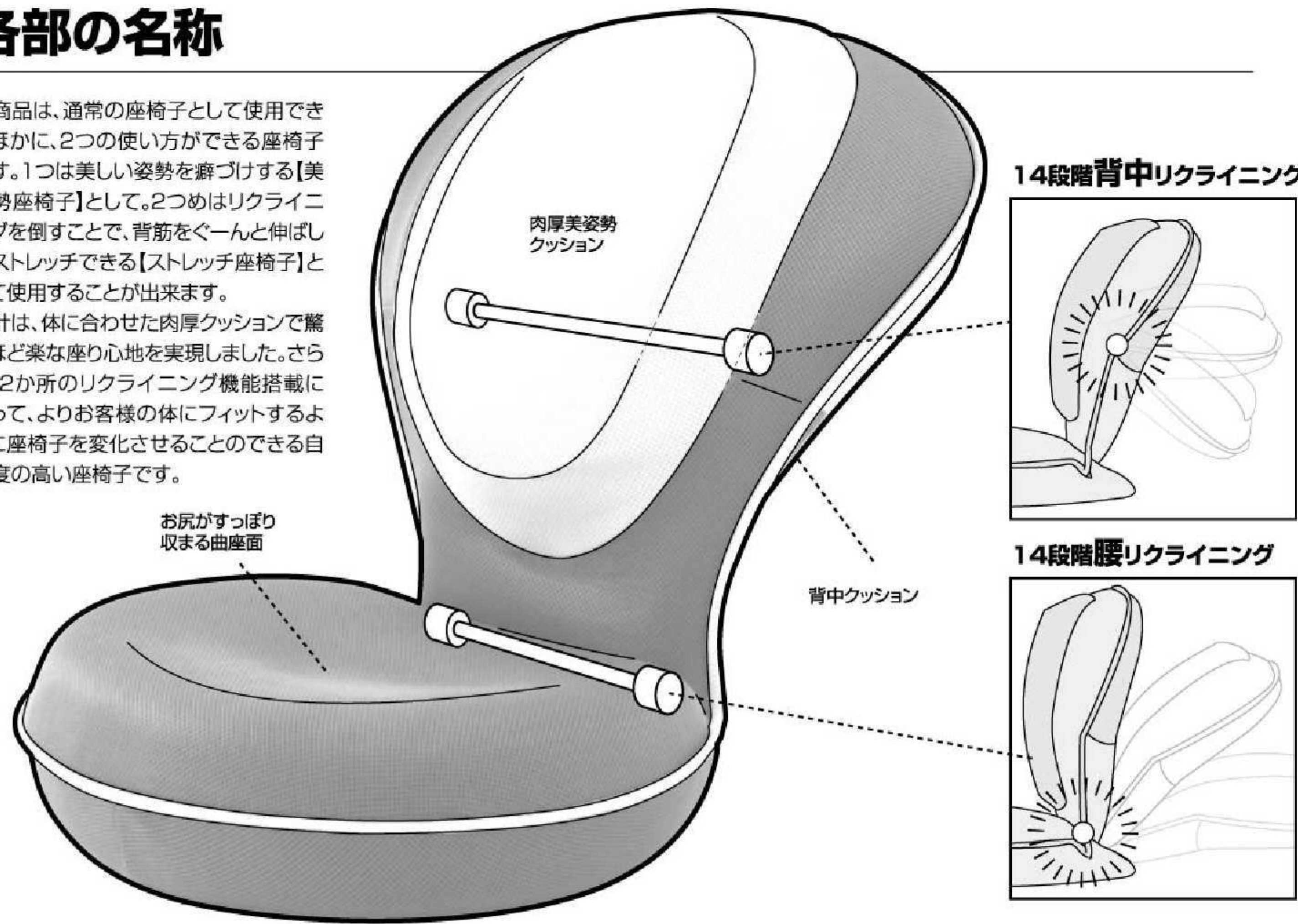
取扱説明書

Dream

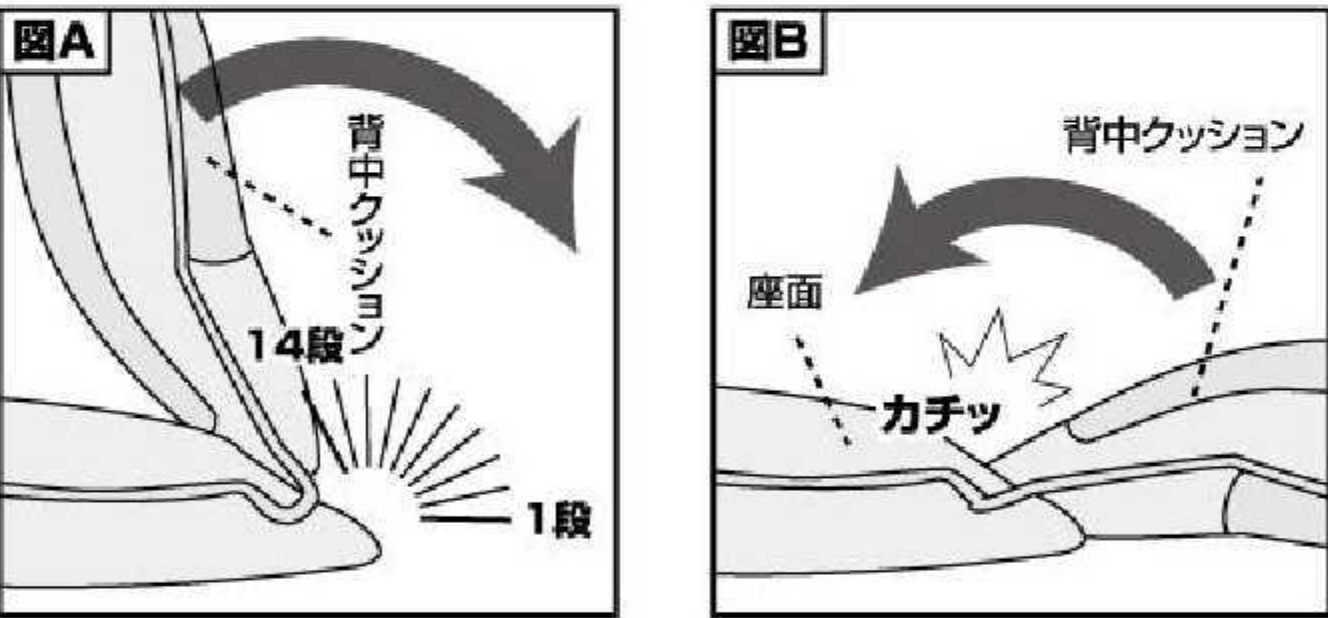
はじめに

この度は、「背筋がGUUUN 美姿勢座椅子」をご購入いただき、ありがとうございます。
ご使用前に必ず、この取扱説明書をお読みの上、正しくご使用ください。

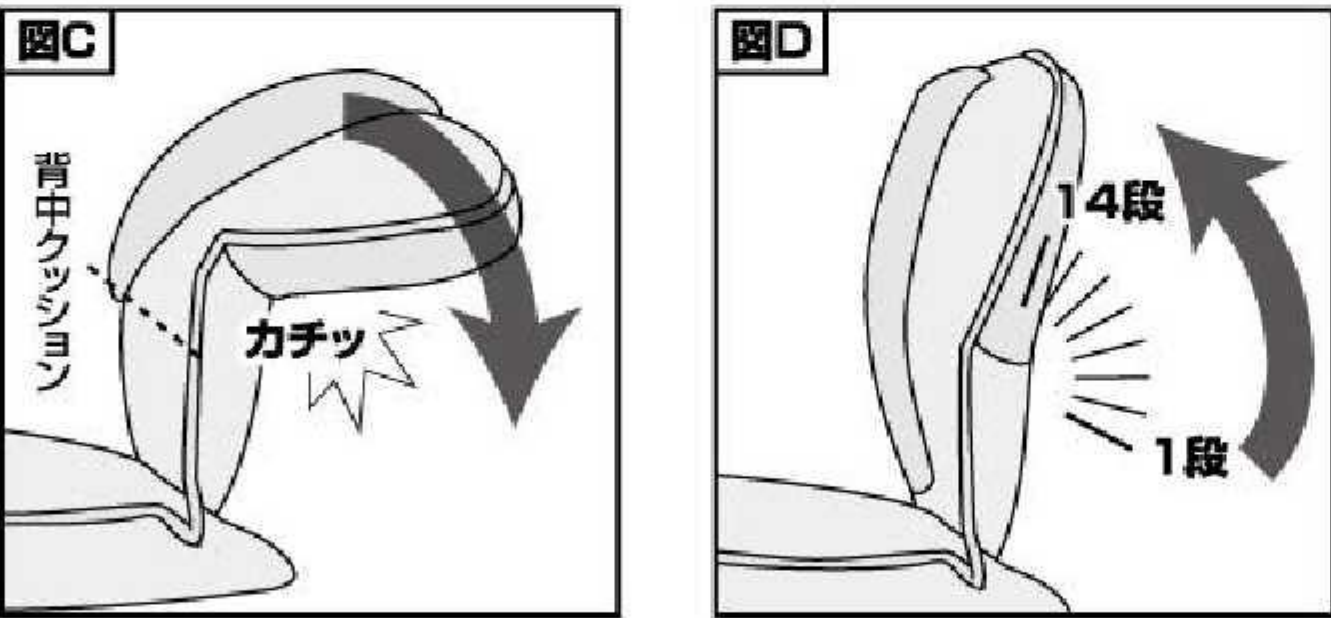
各部の名称

本商品は、通常の座椅子として使用できるほかに、2つの使い方ができる座椅子です。1つは美しい姿勢を癖づけする【美姿勢座椅子】として。2つめはリクライニングを倒すことで、背筋をぐーんと伸ばしてストレッチできる【ストレッチ座椅子】として使用することが出来ます。
設計は、体に合わせた肉厚クッションで驚くほど楽な座り心地を実現しました。さらに、2か所のリクライニング機能搭載によって、よりお客様の体にフィットするように座椅子を変化させることのできる自由度の高い座椅子です。

使用方法

●腰リクライニングの調節方法

腰リクライニングは、背中クッションをまっすぐに伸ばした状態から90度折れ曲がった状態まで14段階に調節できます。調節方法は以下の通りです。

1. 図Aのように前面側へ折るように傾けた状態から背中クッションを「カチッ」と音がするまで後ろに倒すと、図Bのようにフラットな状態になります。(この状態を1段階とします。)
2. 図Bのように1段階から背中クッションを徐々に起こし、14段階のお好みの角度に調節してください。
3. 背中クッションを14段階以上に傾けると再びフラットな状態に戻り、お好みの角度に調節できるようになります。

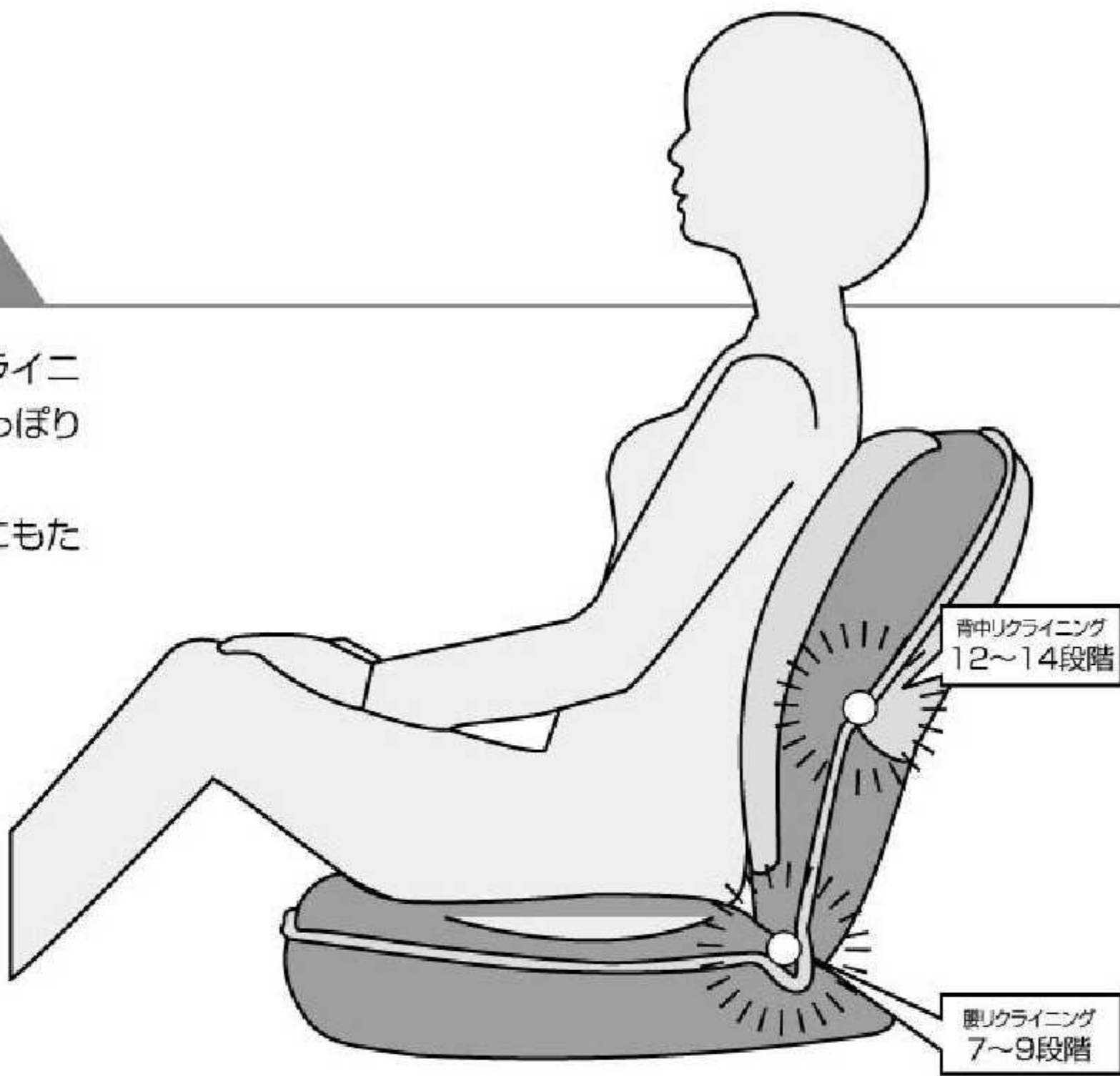
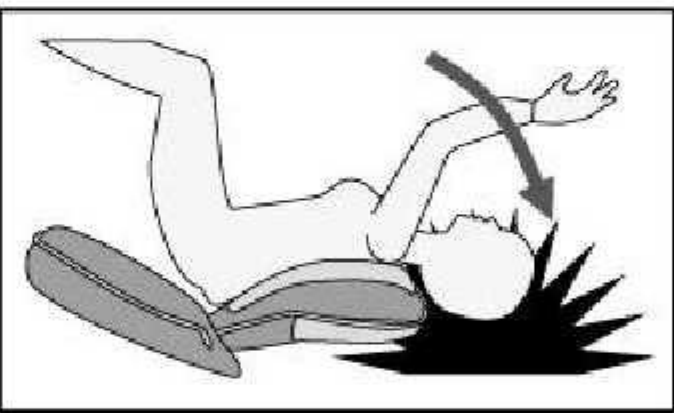
●背中リクライニングの調節方法

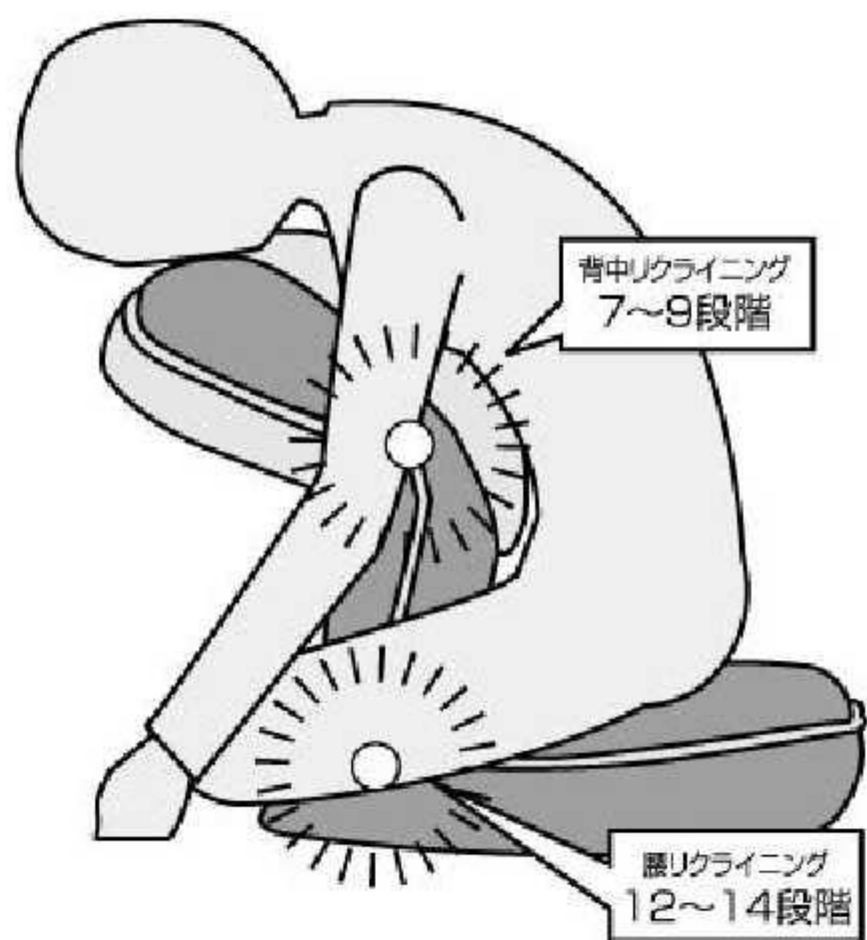
背中リクライニングは背もたれの中央を背中側に90度折れ曲がった状態からまっすぐにのばした状態まで14段階に調節できます。調整方法は以下の通りです。

1. 背中クッションをある程度起こした状態で、図Cのように背もたれ部の中心を背面側へ折るようにして、「カチッ」と音がするまで曲げます。(この状態を1段階とします。)
2. 次にリクライニングを14段階まで徐々に伸ばし戻しながらお好みの角度になるように調節してください。
3. 図Dのようにリクライニングを14段階以上に傾けると再びフラットな状態に戻り、お好みの角度に調節できるようになります。

通常の座椅子として使用する場合

右図のように腰リクライニングを7~9段階に調節、背中リクライニングを12~14段階に調節した後、座面のくぼみに骨盤がすっぽり収まるよう深く腰掛けてください。
背もたれ部の肉厚美姿勢クッションに身体を預けるよう静かにもたれます。

背中リクライニング 12~14段階
腰リクライニング 7~9段階

※勢いよく背もたれにもたれ掛かると、頭部を床等に打ち付ける危険性があります。注意してください。

だっこ姿勢で使用する場合

左図のように腰リクライニングを12~14段階に調節、背中リクライニングを3~5段階に調節した後、背もたれ部を前面にし、足の間で抱え込むように座椅子にまたがります。
このとき背中リクライニングの折れ曲がり部分がお腹の肋骨下あたりにくるとよりフィット感が得られます。

ゆったりリラックスしたい場合は、身体を預けるようにもたれかかります。
腰リクライニングを12~14段階に調節、背中リクライニングを7~9段階に調節した形がお勧めです。
※うつぶせでの使用は、呼吸を妨げないようにご注意ください。

背筋ストレッチに使用する場合

【負荷の少ないストレッチの仕方】

腰リクライニングを6段階に調節、背中リクライニングを14段階に調節した状態でゆっくり背もたれに身体を預けるようにもたれかかります。
そのまま10~15秒ほど静止し、ゆっくりと身体を戻してください。

【ぐーんと背筋も腰も伸ばすストレッチの仕方】

腰リクライニングを4段階に調節、背中リクライニングを6段階に調節した状態でゆっくり背もたれに身体を預けるように後ろへ倒れます。
そのまま10~15秒ほど停止し、ゆっくりと身体を戻してください。

※勢いよく背もたれにもたれ掛かると、頭部を床等に打ち付ける危険性があります。注意してください。